たけうまファンド　2021年7月　月次報告書

運用状況ならびに運用担当者のひとりごとをひっそりとお届けします。

作成基準日：2021年7月30日

運用実績

運用成績

	1ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
たけうまファンド	2.6%	-	27.7%	16.6%	1346.6％

たけうまファンドの運用状況

時価総額	非開示
組み入れ銘柄数	35銘柄

資産配分比率

	比率
国内株式	39.3%
海外株式	50.5%
優待株式	10.1%
現金（円・$）	0.2%
合計	100.0%

組入上位10銘柄

	比率
ServiceNow, Inc.	10.5%
MSCI Inc.	6.5%
ベネフィット・ワン	6.4%
DocuSign, Inc.	6.1%
シンメンテHD	5.9%
CrowdStrike Holdings, Inc.	5.8%
Invesco QQQ Trust, Series 1	5.5%
Align Technology, Inc.	5.2%
NVIDIA Corporation	4.9%
ニトリ	4.6%

運用担当者のひとりごと

今月はノートレ。なにも取引しませんでした。見てわかる通りほとんど現金持ってなくてフルポジなのに興味が薄れ気味で、雰囲気や流れとか動いてる銘柄とかなにも見ていない状態。元からそうトレードはしないように心がけているところはあるので興味が薄れているほうがいいのかもしれません。薄れている理由としてはもう資金がなくて新しい銘柄買えないからっていうのが挙げられます。

7月なので日本は第1四半期、アメリカは第2四半期のシーズンです。今回は嬉しいことに今のところ決算ミスの銘柄がなく堅調に推移しています。自分が選んで資金を入れている会社がきちんといい決算を出せていると自分が肯定されている感じがしてとても気分がいいですね。値動きが冴えないものが多い日本株も今回の決算でまた見直し買いが入ってくれるようになるといいんですが。

この記事を書いている31日現在、全国で1万人を超えた昨日よりさらにコロナ陽性者が増えています。ブレイクスルー感染も話題になって全くアフコロが見通せない状況ですが特に傾けてるわけでもないので状況を見ながら対応していきます。

銘柄紹介

MSCI（ティッカー：MSCI）

ETFや投資信託に感心のある投資家にはお馴染みのMSCI。MSCIコクサイが日本人には一番メジャーなんじゃないでしょうか。指数を開発して投信会社などに販売するインデックスセグメントが主力事業です。その他、分析のアナリティクス、流行りのESGと気候関連、その他（プライベートアセット）事業を持っています。「開発した指数を販売する」と聞くだけで原価かからなさそうだな、という印象の通り営業利益率50％前半台をずっと維持している超高収益企業でもあります。すげえ！

保有に至った当初の理由は世界全体で運用資産の拡大は不可逆であり、パッシブへの移行の流れとESGのうねりも不可逆だと考えたからです。先進国にいるとなかなか意識しにくいことですが、国は発展が進んでいくに従い公的年金や生命保険制度が充実していき、それらの運用資産は増えていきます。預貯金や個人の資産運用も然り。これらの、できる限りリスクを排除して低コストで運用していきたい機関投資家はMSCIのど真ん中の顧客となります。またそれらが拡大する中で現在のESGの機運が取り上げられないことはありえません。今のところ当初の目論見通り推移していてうれしい限りですね。

さて、今回この銘柄を取り上げたのはそれらを書きたかったからではありません。新しい、興味深い動きが出てきているからです。それは「ポートフォリオの構築からリスク管理まで全部やります！」という動き。所謂マルチアセット運用をもう全部ガッツリ獲りに行く姿勢を鮮明にしたんですね。

おそらく直接のきっかけはESGおよび気候変動商品だったのではないかと思います。前期の資料に突然「ウェルスマネージャーから引き合いが急激に増えている」との記載があったんですね。富裕層は一般的に気候変動問題には関心が高く、運用は増やすというよりインフレに負けないことを主眼として専属の担当者に任せていることが多いです。日本の対面販売と異なり販売手数料ではなく残高に応じた手数料が収入源なので指数を活用した低コストの商品が好まれるため、彼らもど真ん中の顧客になりえます。保険会社からもニーズがあるようで、既存顧客とは異なる顧客層からのESG・気候変動要素を含んだマルチアセット運用のニーズが急速に膨らんできた。

それを受けて今期からの長期展望では気候変動、テーマ別インデックス、債券インデックスが主要成長分野として掲げられています。また、顧客ごとのインデックスのカスタマイズ機能だったり、担当者が使えるリスク管理やポートフォリオ構築用のツールの開発も注力分野としています。全てがマルチアセットに全振り。指数からツールまで丸ごと提供することで下がり続ける信託報酬から下落圧力がある指数利用料だけなく別方面から手数料もいただきますよと。

今までどちらかというと投資家からするとお荷物的ポジションだったアナリティクスとプライベートアセット事業を組み合わせて、企業の総合力をもってマルチアセット運用市場に切り込んでいくわけです。

単なる指数開発企業から指数を活用したマルチアセット運用サポート企業に変身していくMSCI。じわじわと上がり続ける株価も会社の目指す方向性を支持しているように思えます。今後の展開にも注目です。